事例No.	886
公表年度	R1
団体の属性	町村
団体名	愛知県設楽町

事例区分	一般行政

タグ	・公共施設活用 ・地域運営組織 ・教育・子育て

事例種類	木材利用・普及啓発

事例内容・タイトル

町産材を活用した木材利用普及啓発及び林福連携

出典

森林環境譲与税の取組事例集（令和２年１月）

木材利用・普及啓発

愛知県　設楽町（町産材を活用した木材利用普及啓発及び林福連携）

わがまちの税活用方針

- 設楽町の森林面積は約25千haあり、町のおよそ9割を占め、民有林に占める人工林率は約8割の15千haと、高い人工林率であるが、標準伐期齢以上の高齢級が87%と齢級構成に大きく偏りがあり、資源の循環利用が課題となっている。
- 町では、森林環境譲与税を活用し、森林・林業の意義や木材利用使途に関する普及啓発を目的として、令和元年10月から約150人の職員等を対象に、従来着用していたプラスチック製の名札ケースを町産のヒノキ材を使用した名札ケースに切り替える取組を行う。
- 間伐により発生した木材を活用することで、森林整備の促進につなげる。

主な取組・概要

設楽町産のヒノキ材を活用した名札を森林組合、障害者就労施設が連携し製作。町内外への木材利用の普及啓発に活用する。

【事業名】名札ケース製作事業

【事業費（全額譲与税）】264千円

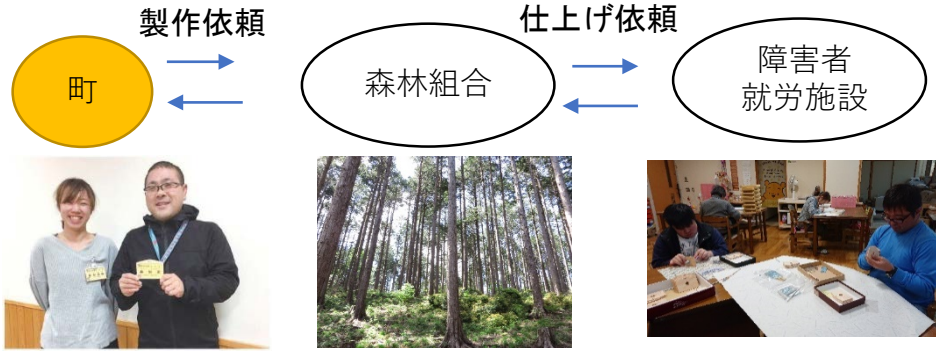
【実施時期】令和元年10月1日～年度内

【事業内容】



- 名札ケースはヒノキ人工林の間伐により発生した木材を材料に使用（縦７cm、横10cm、厚さ７mm）。
- 役場全職員及び町議会議員を合わせて約150人が着用。
- 同町を水源とする豊川の水を利用している下流域や、交流・協力協定を結ぶ自治体にも使用を呼び掛けており、今後、一般向けの販売も検討。

事業スキーム



・地元森林組合にデザイン等を発注し、障害者就労施設の就労者によりヤスリがけを行う。

工夫・留意している点、特徴等

・名札ケースの製作にあたっては、地元産木材の利活用を役場から積極的に発信できるよう、業務で木質化できるものを探していたところ、職員が毎日着用する名札ケースという考えに至った。
・今後は、協定を締結した自治体にも呼びかけ、普及啓発を図る。